

学会企画シンポジウム 1

教室が「対面」である意味とは ——教育心理学からの提案——

【企画趣旨】

コロナ禍は社会のさまざまな面に影響を及ぼし、学校教育にも深い影響を及ぼし、現在、そして未来にもその影響は及ぶ。突然の休校や授業や学習のオンライン化などにより、これまで当たり前であった授業の形態も、大きく変化しつつある。

学校教育が「対面」であることの意味は、これまで問われることなくされてきた。コロナ禍はこのような前提に根本的な問いを呈することとなり、対面での学校教育がどういった教育心理学的な意味があるのか、改めてその答えを準備する必要があるだろう。このことは、「非対面」「オンライン」の教育効果や教育的意義を考えるうえでも、有意味なことと考えられる。

『令和の日本型教育』（文部科学省, 2021）という指針に照らして、日本の学校教育の特徴である学級集団づくりが、ポストコロナの今、どういう意味をもちうるかは、教育施策としても重大な課題である。対面による学校教育の意味を教育心理学的に問い直し、発達・学習・生徒指導・臨床心理学といった各領域からの意義づけ、理論化を考えたい。